

表現の  
自由  
自  
由  
侵すな

弾  
圧  
や  
め  
ろ

原  
発  
い  
らん

燃やすな  
がれき

南労会支部 ○

# 2/3 関西大弾圧はねかえそう！ 千人で全国集会とデモ

原発に反対したら、大  
学の先生も逮捕！

子どものために放射  
能ガレキ持込む大阪市  
に抗議したら逮捕！労  
働組合員も争議で逮捕、  
釜ヶ崎で投票所に行っ  
たら逮捕！大阪府警はむ  
ちゃくちゃ。わたしら  
には文句いふ自由や行  
動の権利がありますね  
ん。これは許されへん！  
アカンもんはアカン  
と皆で大きな声と行  
動おこそう。(集会ピ  
ラより)

◆三ヶ月で十一人逮捕

ここ十年あまり労働  
連動や野宿者、市民に  
対する不当弾圧が目だ  
つてきました。そして  
今、関西大弾圧と呼ば  
れる事態になっていま  
す。大飯原発再稼働  
やガレキ焼却に反対  
する市民を警察が次々  
と逮捕。昨年九月以降  
その数のベ十一人。六  
人の方は起訴され暖房  
もない獄に囚われたま  
ま。うちは二度も起訴  
されています。許しが  
たいことです。

◆みんなの人権を奪う

これは原発反対運動  
や労働組合に関わって  
いる者だけの問題では  
ない、全ての人々の人  
権、表現の自由を奪  
う弾圧、ここではね返  
さなければ大変な社  
会になる！一刻も早  
く獄中の仲間をとり  
戻そう！と集会とデモ  
が行われました。関西  
生コン支部・港合同な  
どの反弹圧ネットワーク  
も主催者として闘いま  
した。ここでは当事者  
の訴え要旨の抜粋を紹  
介します。

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

### 弾圧当事者の訴えよ!

■関西大弾圧救援会の下地です。私自身も十二月九日にウソの被疑事実によって令状逮捕、二十日間身柄拘束を受けました。二〇一二年の関西は弾圧の嵐が吹き荒れました。〈略〉すべてが不当逮捕です。関西の弾圧の特徴は、とにかく無理やりにも起訴してしまう、つまり、少数を徹底的に痛めつける点に特徴があるように思います。それには、運動を萎縮させると同時に、このような国家権力の悪事が世間一般に伝わりにくいようにするという意図があります。こんな陰険としか言いよ

うのない仕事に真顔で従事している人間がいると考えるに、気色の悪さに身震いがする思いです。

なんとしても、この弾圧の嵐を跳ね返して行きたいと思います。こんな腐り切った世の中は、私たちの時代で終わりにしましょう。そのために力を合わせて闘いましょう。

### ■韓です。(要旨抜粋)

二ヶ月を超える勾留にはうんざりですが、原子力産業相手に闘えばいずれ弾圧はあるだろうとは思っていたので、充電の時だと思うことにしています。

一連の弾圧は抗議行動

を威力業務妨害や公務執行妨害として逮捕勾留するということ、表現の自由を無視し、公安・警備・警察が法を恣意的に運用するということ、断じて許されません。これに荷担する裁判所も糾弾して

いかなければなりません。原子力産業の戦略は「福島原発事故が過酷事故であることは隠せないが、放射能の実害は見えなくすることは可能」というもの。その為に震災ガレキの広域処理を利権にすり替え、人々の意識を復興という美名で惑わしてきました。ガレキ受入れ反対はこの思惑を破綻させる危険があると、

弾圧がエスカレートしたと思います。

私は何がなんでも止める覚悟で闘ってきました。

この間の行動で怒りを表現することにこだわりを持って来ました。原発震災に見まわられて苦境にある東北の人々が、強力なメディアによる同調圧力に圧迫される姿に、この社会の支配の仕組が見え



るからです。

喜怒哀楽は人間ならあたり前に持つ感情。なぜ怒ることだけが抑制されるのか、それで誰が得をするのかを考える時、私は怒りを表現することが闘いつづけるための生命線であると考えます。

他者の犠牲の上に生きる社会を変えていく力は、社会全体を見渡す広い視野から生まれるものと思います。無関心でいることは罪であることを再確認しながら全ての運動とつながりながら闘って行きます。

## 橋下は放射能ガレキの本格焼却を強行

# 被曝させるな！ ガレキは利権！

橋下は名ばかりの「住民説明会」で、市民からの質問にも抗議にも答えないうまま、岩手県からのガレキ本格焼却を始めた。試験焼却で様々な影響が出たことが指摘され、住民から被害と怒りの訴えがなされているのに！

二月一日午前九時ごろ、此花区の舞洲工場に抗議の電話をかけた。「九時から焼却開始の予定。何件も抗議電話ありました」との対応。この時から、二四時間体制ですっと一

年間、放射能を含む様々な有害物質のついたガレキを燃やすというのだ。その空気を吸うことを強制される。タバコの煙どころではない。何と無責任で罪なことか！巨額の利権と税金が動いている。

住民と従事する現場労働者の被曝の危険をどうするつもりか。特に若い人たちの健康、子ども達の将来、日々どう気をつけたらよいのか等、不安と恐さの实感がジワジワと湧いてくる。

被災地の子どもの保護に取組んできたグループも大阪ではもう出来なくなりました。

阪神大震災の時のアスベストの被害が十七年たった今、はつきりと現われ、大変な社会問題となっているではないか。

発見から六〇年にもなる水俣病に未だ多くの方々苦しめられ続けている。ガレキの焼却を一刻も早く止めなければならぬ。子どもを守ろう。力をあわせて何とかしよう。